

東京圏への人口一極集中の原因分析

○柏村汰知 市川学 (芝浦工業大学)

Root causes analysis of population overconcentration in the Tokyo area

* T. Kashimura M. Ichikawa (Shibaura Institute of Technology)

概要一 日本では、東京圏への人口一極集中状態が続いている。東京圏の人口は過度集中とみなされ、過密化や災害リスクの増加といった問題を引き起こしており、政府は是正のための政策を行っているが、効果の実態は見られていない。本研究では、東京圏への人口一極集中のメカニズムを明らかにすることで、効果的な一極集中是正のための政策を検討する。

キーワード: 東京一極集中, 要因分析, EBPM, シミュレーション

1 はじめに

現在日本では、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）への人口一極集中状態が続いている。東京圏の人口増加傾向は一貫しており、2020年時点での人口は3693万9千人で、全国の約3割を占める。東京圏への人口一極集中の利点として、経済活動や人間活動が一地域に集中することによる都市の発展があげられる。しかし、日本が属する高所得国において、都市人口に占める首位都市の人口は2割程度が最適であり、東京圏の2割という集中度は過大であると指摘されている¹⁾。過大な人口集中が引き起こす諸問題として、地方の衰退、災害リスクの増加、過密化などが挙げられる。政府は現在まで、「東京一極集中」是正のための政策を実施し、地域の活性化を促してきたが、東京圏への人口集中は是正されていない。効果的な政策実施のためには、「東京一極集中」を引き起こす要因を明らかにし、それらを解決する政策を行う必要がある。

2 先行研究

増田(2014)²⁾は、人口移動の原因を「経済力」と「雇用力」の地域間格差にあるとし、高度経済成長期やバブル経済期による大都市における雇用の増加や、地方の経済雇用状況の悪化を挙げている。また、平田ら(2019)³⁾は、道路インフラの集中的整備と人口集中の関係性から、地方と東京圏のインフラ格差を是正することの有効性に言及している。その他にも、政府の中核機能が東京に集積している点を要因として指摘されている⁴⁾。このように東京一極集中問題は複数の要因からなっており、単一の要因によって説明することは困難である。

3 研究の目的

本研究は、先行研究を踏まえ、東京一極集中の個別要因間の相互作用とメカニズムを明らかにする。その上で、どのような要因に対する政策アプローチが東京一極集中の是正に繋がるのかを示す。以上により、政府の東京一極集中是正政策におけるEBPM (Evidence-based Policy Making 証拠に基づく政策立案) を可能にすることを旨とする。

4 方法

EBPMにおいて、政策の評価を行うため、政策シミュレーションモデルを作成し、提案された政策が東京

の人口集中にどのような影響を与えるかを予測する。モデル作成の手法は、まず、各都道府県間の転入出のパネル・データである「住民基本台帳人口移動報告」⁵⁾を被説明変数とし、東京圏への転出に関する要因分析を行う。先行研究と得られた要因を用い、因果推論を行うことで、要因間の因果関係を定式化する。その後、東京一極集中のメカニズムを表現するモデルを構築し、シミュレーションを用いた政策評価を行う。研究概要は以下の通りである (Fig. 1 参照)。

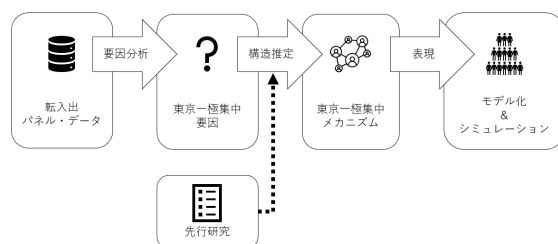


Fig. 1: 研究の概要図。

5 今後の計画

各都道府県間の人口転入出データは季節性とトレンド成分を含んでいる。トレンド成分が都道府県ごとに異なっていることから、転入出の変動には地域特性要因が関係していると考えられる。この地域特性要因と因果の生成過程を明らかにし、これらを表現したシミュレーションモデルを作成する。

参考文献

- 1) 西崎文平: 東京一極集中と経済成長, JRI レビュー 2015, Vol. 6, No. 25, (2015)
- 2) 増田寛也: 地方消滅 東京一極集中が招く人口急減, 中央新書, (2014)
- 3) 平田 将大, 川端 祐一郎, 藤井 聡: 道路インフラ投資が人口の東京一極集中に与える影響に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.75, No.5 (土木計画学研究・論文集第 36 巻), I 967-I 978, (2019)
- 4) 戸所隆: 東京の一極集中問題と首都機能の分散, 地学雑誌 123 巻 4 号, pp528-541, (2014)
- 5) 住民基本台帳人口移動報告 (総務省統計局) (<https://www.stat.go.jp/data/idou/index.html>) (2021/7/22)